

前回委員会の意見と調査における 対応方針

	意見	対応方針
<p>魚類迷入試験計画(案)について</p>	<p>仔アユは取水施設になるべく迷入しないことが望ましいが、最終的にそれがゼロにならない可能性もある。 那珂川全体の漁業資源の維持保全という観点から見て、影響の無い迷入率は、どのぐらいを目指すべきか。今回、工学的なことをやるので、目標設定をしなくていいのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仔アユ降下数の年変動は取水による影響の他に、自然の影響(台風、水温、流況等)を大きく受けるものです。このため、漁業資源の維持保全の観点から影響の無い迷入率の目標設定は困難であると考えます。 ・迷入率については、今後モニタリングにより実態を把握した上で、迷入防止対策効果を確認するひとつの指標として整理したいと考えております。
<p>魚類迷入試験計画(案)について</p>	<p>仔稚魚の行動が、取水口に吸い込まれるときの流況に大きく影響しているとすれば、もう少し潮汐の影響に視点を置いて解析する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間別の調査や流速の調査等を行うなど、引き続き潮汐と迷入量を調査し、その関係性についての検討して参ります。
<p>魚類迷入試験計画(案)について</p>	<p>稚アユ・稚ザケ迷入量調査のスクリーンを通過する魚の採捕方法について、定置網の目合いは4mmより細かくした方が良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーン通過魚の採捕のためにはご意見の通り定置網の目合いを細かくするのが望ましいですが、濾水性や試験の作業性、網の強度等を勘案し、4mmの目合いとしています。
<p>魚類迷入試験計画(案)について</p>	<p>標識魚の放流位置についてどのように考えているのか。取水施設(水戸市枝内取水塔)があると稚サケが集まり易いので放流位置はよく検討して欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、稚サケの放流箇所は取水施設(水戸市枝内取水塔)の下流側より放流します。